

## ルカによる福音書17・20～37の釈義問題

関口 康

2004年3月16日

とくに聖書学専攻の諸兄姉に（しかし、もちろんそれ以外の方々にも）ぜひお助けいただきたいことがあります。

じつは本日わたしは、ある勉強会に参加していました。一人の教師の説教を聴き、批評するというものです。テキストはルカによる福音書17・20～37でした。

その批評の中である方が主張されたことは、ルカ17・20～37は二つに分けて考えるべきで、20～21節は史的イエスの真正の言葉が語られているが、22節以下は後代の教会による挿入である、ということです。その区分の根拠は、以下のようなことでした。

（1）ルカ17・22以下に出てくる「人の子」称号や黙示文学的表現は、史的イエスにさかのぼることができないものである。そのように、大貫隆先生などが主張しておられる、とも伺いました（わたしの手元に大貫先生の本がないので、確認できません）。

（2）仮に、史的イエス自身が「人の子」について語ったこと自体は否定できないという結論になったとしても、その場合の「人の子」は（史的）イエス自身を指す称号ではない（つまり、史的イエス自身には、「人の子」としての自覚はなかった）。

（3）従って、史的イエス自身は自らの「再臨」(second coming)については語らなかったのであって、「人の子の再臨」というのは、イエスの死後の教会の中で成立した「教義」ないし「信仰」（に過ぎないもの）である。

それを聞いたわたしは、大いに疑問に思いましたので、以下のような反論を述べました。

（1）もしそのように、黙示文学的表現というものを、史的イエスの真正の言葉には含ま

れないと言い切り、聖書の中のイエスの言葉から黙示文学的表現を取り除こうとするなら、その後に残る部分は、マタイ5～7章の「山上の説教」など、倫理的な事柄に限定されてしまい、その結果、(史的)イエスの存在を、単なる倫理の教師とみなしてしまわざるをえないであろう。しかし、実際には、聖書の中のイエスの言葉は、黙示文学的表現に満ち満ちているのであって、両者(史的イエスの真正の言葉と黙示文学的表現)を切り離すことは、実際的にも・理論的にも不可能である。

(2)もし本当に、史的イエス自身は「人の子」としての自覚は持っていなかったとか、史的イエス自身は自らの「再臨」について語ったことはないということが事実であるならば、キリスト教信仰は、われわれにとってほとんど信じる価値の無いものになるであろう。イエスの「復活」と「再臨」との関係は不可分である。すなわち、「復活」とは「再臨」の担保である。なぜ、われわれは、イエスの口からは「復活」だけが語られ、「再臨」については語られなかった、と云うるだろうか。イエスが自らの「復活」を語ったことを否定する人は(よほどラディカルな人ならともかく)、きわめて少ない。もしこのことを否定するなら、イエスが「再臨」について語ったことも否定しうるかもしれないが、それは事実ではない。

(3)ついでに言うなら、「再臨」の自覚も言明も無いようなイエスの説教には、迫力のかけらも無い。「このわたしこそ『人の子』である。そういう者として、このわたしこそが、復活もし、再臨もするのだ」と語られてこそ初めて、人々の心を揺さぶるものとなる。「再臨する人の子」と史的イエスを切り離してしまうと、初代教会のあれほどまでの熱心を説明できなくなるのではないか。

このわたしの反論に対して、その方から返ってきた言葉は、「それは、貴方(関口)の信念(しんねん)のようなものだ(=学問的ではない)」というものでした。

わたしは何とも釈然とせず、帰宅後、手元にあるI. H. マーシャルの『ルカ福音書注解』(NIGTC, Eerdmans P. C. 1978)の当該箇所(同書657ページ)を開きましたところ、以下のようなことが書かれていました。

「この教え（黙示文学的表現）とイエスの真正の言葉との関係については、いろんな評価がある。シュルツは、この箇所全体を、Q資料の後代の層に帰す。彼はQ資料における“黙示文学的なるもの” (apocalypse)の存在は、マルコ福音書におけるそれと同様、後代に起源をもっていることの証拠である。（中略）これらの議論は承服しかねるものである。彼らはたしかに、それぞれ孤立した言葉がイエス自身へとさかのぼる可能性を除外してはいないが、あまり説得力がないほうの前面に立っている。最も高い蓋然性を持っているのは、イエスご自身がパルーシア（再臨）以前にあって、ある種の“中間時” (interval)を勘案していた、ということであり、イエスは再臨する人の子とご自身を同一視していたということである。イエスが旧約聖書をこの段落で用いられているような仕方で用いることはできなかったということを真に示す証拠は、どこにもない」。

このマーシャルの判断は、「保守的」（＝非学問的？）でしょうか。皆さまのお考えをお聞かせいただけますと、うれしいです。よろしく願いいたします。